

令和4年度企画展・榎友祭八幡山トーク

ご卒業100年記念 閑院宮が学ばれた小田原中学

令和3年が閑院宮春仁王殿下(中16)ご卒業100年、令和4年が吉田庫三初代校長没後100年、阿部宗孝第二代校長退任100年になります。閑院宮を中心に当時の先生方と生徒たちの活躍、そして御手植えの松をはじめとするさまざまな記念樹を紹介します。



剣道部とのご卒業記念写真。前列中央が殿下、左が阿部校長、右が高野佐三郎先生、右端に御手植えの松が見える

企画展

期間:令和4年5月8日(日)~令和5年4月30日(日)

会場:中等教育史料館・校史展示室(小田原高校南館3階)

入館料は無料、どなたでもご入館できます。公開行事以外のご見学は、事前予約制のため、下記までご連絡ください。また、ご入館時、検温など感染対策にご協力をお願い申し上げます。

榎友祭八幡山トーク

日時:令和4年5月8日(日)11:30~12:30

会場:小田原高校 視聴覚室(集成館ホール)

講師:石井敬士(史料委員会副委員長/高11)

定員:200名(入場無料、どなたでもご入場できます。)



神奈川県立小田原高等学校同窓会榎友会

電話 0465-20-3281 メール kenyukai@odako.org



1 八幡山の新校舎



体操の時間に「地ならし」に励む生徒たち

たことは、忘れられない思い出であり、誇りだった。

新築工事が始まると、生徒たちも「地ならし」「木運び」のため、実によく働いた。「地ならし」は、体操の時間に先生も生徒もいっしょになって、掘り出された大小の石を片付ける。大きな石は太い綱を巻きつけ、50～60人でエイサ、エイサと片隅に引っ張った。「木運び」は、運動場と校舎の間の土手に多数植えられていたサクラを、植木屋が掘り、体操の時間に1クラスで1本、ワッショイ、ワッショイとかついで運び上げる。百段坂が一番苦しかった。八幡山は森林をめぐらし、箱根山を背負い、相模灘を一望する風光絶景の地である。このような所に自分たちの校舎ができるという思いは生徒たちを喜ばせ、「地ならし」「木運び」にも熱が入った。その建設に少しでも働

2 閑院宮のご修学

閑院宮春仁王殿下は5年間、率先して校規を守り、生徒たちの模範とされた。天候にかかわらず、毎日天神山の御別邸から歩いて通学し、式典や講演会では最初から最後まで背筋をピンと張り、毎年の剣道寒稽古は皆勤だった。5年生の新学期に学習院から籍を本校に移し、名実ともに本校の生徒とされた。大正10年3月、第16回卒業式が挙行された。当時、皇族が学習院ではなく、地方の中学校に入学し、5年間在学し、しかも生徒として卒業されることは異例であり、本校にとって無上の光栄だった。



校舎玄関前の殿下。後ろはお付き添い

3 先生方と生徒たちの活躍

吉田庫三初代校長は二宮尊徳の教えを説き、質実剛健の気風を養成した後、第四中学校(現横須賀高校)初代校長として教育に情熱を注ぎ、大正11年に没した。阿部宗孝二代校長は校訓の制定など本校の基盤を築き、大正11年に本校退任後、東京府立高等学校校長(現東京都立大学学長)、満州国吉林師道大学学長として活躍した。



中央が澁谷先生、その左後ろが河野謙三

東北帝国大学の国語学教授となった小林好日先生、『万葉集』の研究に多大の業績を残した国文学者の武田祐吉先生、大日本報徳社副社長となって『二宮尊徳全集』を刊行した佐々井信太郎先生、東京高等師範学校(現筑波大学)教授として大日本帝国剣道形を制定した高野佐三郎先生、高知博物館を設立して牧野富太郎と博物学の発展に貢献した伊藤和貴先生、箱根駅伝のコースを設計し、ロサンゼルスオリンピック日本選手団役員を務めた澁谷寿光先生(中7)など、優秀な先生ばかりだった。生徒たちも、日本大学学長・国立がんセンター総長の比企能達(中8)、小説家の牧野信一(中9)、郵政大臣の小金義照(中10)、歴史学者の相田二郎(中12)、芥川賞作家の尾崎一雄(中12)、副総理・自民党総務会長の河野一郎(中12)、参議院議長の河野謙三(中15)、詩人の藪田義雄(中16)、小説家の川崎長太郎(中17相当)、群馬大学学長の石原恵三(中18)、世界的な甲殻類学者の酒井恒(中18)、小説家の北原武夫(中19)などの活躍が目される。

4 さまざまな記念樹

閑院宮春仁王殿下は大正10年2月にご在校記念、3月にご卒業記念に松を御手植えになった。その他にも、明治38年に明治天皇第6皇女常宮・第7皇女周宮両殿下がご来校記念に御手植えになった公孫樹、大正2年に生徒たちが八幡山新校地へかついで運んだサクラとサルスベリ、「檜林」のシラカシ、大正7年の中学13回卒業記念樹ユリノキ、大正9年の中学15回卒業記念樹カツラ、大正10年の創立二十周年記念樹ザクロなどが現存する。それ以降も現代に至るまで数多くの記念樹が植えられてきた。これらは本校の歴史を物語っており、かけがえのないものである。令和3年10月、閑院宮御手植えの松(ご卒業記念樹)がマツノザイセンチュウにより枯れ、伐採を余儀なくされた。今後このようなことが二度と起きないように、十分な保護対策を講じていく必要がある。



閑院宮御手植えの松。右がご在校記念、左がご卒業記念



神奈川県立小田原高等学校同窓会 檜友会

電話 0465-20-3281 メール ken yukai@odako.org

